

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 6

2013年5月14日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL: 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

小平市内23団体・機関の合同展示会

【忘れない3.11展】 ～こだいらの被災地支援と防災の取組み～

「忘れない3.11展～こだいらの被災地支援と防災の取組み～」を企画して

小平市中央公民館 萩元直樹

今回、中央公民館より「忘れない3.11展」の準備～実践～ふりかえりという一連の過程を「3.11でつながる小平の輪」として設定し、参加を呼びかけさせていただきました。非常に短い期間の呼びかけでしたが、23団体もの市民団体・公的機関の方々と展示会を共催でき、とても嬉しく思っております。

これだけ多くの方々が2年経った今でも変わらない強い気持ちで活動していることと、こういう機会に円滑に協働できる小平の地域力の高さに改めて驚いております。いま、このように人と人・団体と団体が連携し合う機会が着実に増えてきています。そうしてできた緩やかで柔軟なネットワークが、市内さまざまな地域で、さまざまなテーマで作られ、またそのネットワークとネットワークが人や団体によってつながっています。

公民館としては、新たな学習機会をつくることも必要ですが、ネットワークを結ぶような機会づくりも積極的に担っていきたいと思います。そのためには、市内のさまざまな動きを把握している必要があります。ですので、多くの市民の皆様が公民館の機能を活用していただき、公民館職員に積極的に働きかけていただけたら幸いです。

最後に、展示会にご来場いただいた方より多くのご感想をいただきましたので1つだけ紹介いたします。

「私の心の中で、“3.11”のことは、少し薄れてきていました。でも、また何かしなくてはと、心にとめることができました」



(写真は当日の展示)

その他のご感想は「小平市公式ホームページ」や『こだいら公民館だより第128号』で紹介していますので、ぜひご覧ください。

「西地区地域ネットワーク」って何？

昨年3月17日にさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？

西地区ネットワークに思うこと

第3ブロック世話人 大内智恵子

私は小平に生まれ育ちましたが、子育て中やその後の生活の中で新しく小平に根を下ろしている人との交流がありました。その方々は、小平を良くしたい・住みやすい街にしたいという考えで活動している方が多く、私は自分がただ流れに任せて生活をしている事に気付かされたのです。

西地区ネットワークに参加させていただくことは、自分との差を埋めることや自己研鑽ができるかなと感じ、また白梅大学が中心となり、大学生をも巻き込んで活動することに大いに期待しているところです。

さて、先日モンスターペアレントの事が新聞記事になっていました。『自分の子どもだけが差別されている』という不満や思い込みを教師にぶつけているとのこと。

地域での新住民が、地域との関わりが薄く、どのように地域に参加してよいのか、またわからない事や相談で

きる相手がいない等の理由から起こる現象だとのこと。

この「西地域ネットワーク」で出来る活動の一つは地域住民が関わりのきっかけを作り、相談したり話し合いを持つことができるような場所作りだと思っています。3月16日には「小川1丁目地域センター・児童館」がオープンしました。

子どもや大人がにぎやかに参加しているのを見ていますと、ここにはこんな問題は起きないと思えるのですが、ここも区画整理事業の中にあり新しく家を建てて越してくる人がこれからも増えていくことでしょう。

「西地区ネットワーク」はこのような問題を未然に防ぐ役割もあると考えます。私も微力ながらその一端を担えるよう活動していきたいと思います。

平成24年度 小平市市民協働講座（3月16日）

地域で支え合い つなげる まちづくり

前市民生活部・市民協働担当 河原順一

小平市が目指す協働の取り組みは、誰もが暮らしやすく、互いに支えあい、地域課題の解決が出来るまちづくり目指しています。行政だけのサービスではなく、市民が地域の課題を我がこととしてとらえ、自発的・自治的に取り組み、市民と行政の力を組み合わせると効果が上がることは協力して取り組む協働の取組が必要と考えています。

小平市市民協働講座は、今年で3回目となり、なかなか一言で言い表すことが困難な協働について、この分野で著名である大学教授からわかりやすい講演と市内で先駆的に取り組んでいる団体等から、実際の取組事例をお話しいただき、参加者からの質問を交えて協働講座を開催し、理解を深めて参りました。

今年は、市の考えていたテーマが西地区ネットワークの地域懇談会とピタリと重なり市と大学と協働で開催することが出来ました。

講座を企画した思いとしては、西地区ネットワークが1年目を向かえ、講師の山梨学院大学法学部政治行政学



科・日高昭夫教授が重視する地縁団体である自治会と新たな担い手である NPO との協働が地域の皆さんに理解され、取組の一助になればと考えました。市内団体の特徴を知ることによって、市内で活躍し始めたボランティア団体や NPO をはじめとする西地区ネットワークに参加している団体間同士のつながりが活発になっていただければとの思いでした。

日高教授の講演は、自らが山梨県での道普請(みちぶしん)などの自治会のルールの話から始まり、低成長・人口減少時代に入っの地域コミュニティの「骨粗鬆化(疲弊)」が進行していること、自治会やNPOの特徴、最後は映画の「七人の侍(黒沢明監督)」を使って、村人と野武士集団が協働で村の平和を取り戻し、この映画に協働の成功の条件があるとお話でした。

第2部では、白梅学園大学の瀧口教授に今までの西地区ネットワークの設立趣旨、地域の範囲、取組内容や2年目の取組についてお話をいただきました。その後、会場とのディスカッションとなり、小平市の西地区以外の自治会長さんからも日頃の取組や自治会活動の課題について質問がありました。

自治会内のメンバーが活動に対しての関心が低く、役員の担い手がいないため苦勞している。防災訓練をしようにも高齢者中心の自治会のため訓練が出来ないなど、日頃の自治会長さんの苦勞が垣間見える質問に、日高教授から丁寧な回答がいただきました。



市民協働担当では、これからも協働について様々な角度から皆さんにわかりやすい形の講演会を企画して参ります。今回、会場の提供をいただきました白梅学園大学と、協働というテーマの講演会でソフトなタッチで進行していただいた西方准教授にこの場を借りて感謝申し上げます。

「ほっとスペースさつき」開所前後に携わって

子ども学部家族・地域支援学科4年 後藤智子

「ほっとスペースさつき」では、立ち上げ資金のねん出と場所の紹介のために、2012年11月25日(日)に、ミニバザーを行いました。バザーを開催するにあたり、地域の方々におもちゃ・絵本・服・靴などを寄付していただき、白梅学園大学の森山専門ゼミと杉本専門ゼミの学生が寄付されたものに値段をつける作業を行いました。バザーの当日は、近所の方や小さいお子さんを連れたお母さんなどが来てくださり、おもちゃや絵本・タオル・ハンカチなど、さまざまなものが売れました。

年明けの2013年1月8日には、13時半から小川公民館で地域の方々との顔合わせ会が開かれました。「ほっとスペースさつき」代表の渡辺さん、副代表の細江さん、民生・児童委員、高齢者クラブの方々と、森山・杉本専門ゼミの学生が参加し、意見交換会が行われました。私たち学生は地域の方々に関わるのは初めてだったため不安もありましたが、地域の方々から貴重な意見を聞くことができ、とてもよい体験ができた一時でした。

2013年2月28日の開所式は小川公民館で行われました。当日は、多くの地域の方々、小平市役所の職員、社



(写真中央が本人)

会福祉協議会の職員、白梅学園大学の草野教授などが挨拶をされました。開所式終了後は、「ほっとスペースさつき」のあるアパートの方に移動し、お茶・お菓子・サンドウィッチ・甘酒などがふるまわれ、参加された方々は会話をしながら楽しまれている様子でした。

私自身も「ほっとスペースさつき」に当番として関わってみて感じたことは、いろいろな年代の方と関わることができたり、お手伝いをされているスタッフの方々にコーヒーの淹れ方や折り紙、編み物などを教えていただき、とても勉強になりました。

開所してからの様子は、一人暮らしの高齢者の方が来てくださったり、私たち学生もいろいろな世代の方々と話をすることができて、元気がもらえています。「ほっとスペースさつき」があることによって、一人暮らしの高齢者が来て、お茶を飲んで学生たちと話すことによって、若い人のパワーがもらえて「また来ようかな」という気

持ちになっていただけたようで、とてもよい居場所になっているのではないかと思います。これからは、小さい子どものお母さんたちも気軽に来られるような居場所づくりを目指したいと思っています。

つながる地域・大学・行政 (第1ブロック)

第1ブロック(栄町、小川西町)は団地と旧市街地、そして若い新住民からなる地域です。現代社会の縮図ともいえるこの地域はまた、小平市の未来を考えられる地域でもあります。高齢者の方々と若い層が交流し合える場があったらいい、サロンであり講演会もあるといい、そんな地域の方のコーディネートを基にして、3月9日(土)に小川西町地域センター2階を会場にサロン<地域センターで親子であそぼ〜>(午前10時30分~12時)、講座<地域の中で人を育てる>(午後2時30分~4時)を開催してみました。

当日の午前中は、布の手作りおもちゃ・道具を「ひまわり」グループなど市内の女性たちが持ち寄り、また、「グルンパ」のみなさんのペープサートと大型絵本の読み聞かせもありと地域の方の主導のもと、白梅子育て広場のメンバーも加わって楽しいひと時を過ごしました。午後は汐見稔幸学長の講演会があり、市役所からは多くの資料が提供されたりと、約75名ほどの参加者(子どもたちも)は大満足でした。

嘱託研究員 井上恵子

座敷での交流会はだれもが打ち解けて話も弾みます。小平には長きにわたり公民館活動で活躍した女性たちがおり、その作品はどれもプロ顔向けであることに学生たちも驚き、子ども達とのふれあいも生きた学びになったようです。

地域・行政・大学という3者の協働はどこが主導するというわけでもなく住みよい「まちづくり」、人権の保障された、社会的弱者も視野に入れた試みが求められるように思います。小平は素晴らしい歴史と人材の宝庫です。本年度も地域・行政の方々と共に学ばせていただきます。

(写真は学生と子どもたちのふれあい)



「助け合い、支え合いの地域に」

たかの台パトロールホークス 代表 勝俣 茂二

私たち、たかの台地域在住の壮年有志でつくる「たかの台パトロールホークス」は、夜回り・地域清掃などのボランティア活動を開始し、この4月で10年目に入りました。

発足のきっかけは、2004年の春、都営たかの台アパートの団地で「夜な夜な若者がたむろし、タバコなど火の不始末も心配だ」との声が寄せられたことです。併せて、「変質者、不審者が頻繁に出没している」との声もあり、この地域に住むオヤジたちとして、「住民や通学生の『安全・安心』の街を自分たちで守ろう」と、毎週土曜日の夜回りパトロールをスタートさせました。

当初は皆、服装もバラバラ。懐中電灯を持ってゾロゾ

(写真：新堀用水の水路を清掃後、水揚げした落ち葉やゴミの山の前で記念撮影。青年らの応援が頼もしかった。)



口歩く姿は、逆に“不審なおやじ集団”と間違えられたながら「戸締り用心、火の用心！」との掛け声も次第に定着。地域の皆さんから「ご苦労さま」「いつもありがとうございます」などと、窓を開けて声をかけていただけようになり、6年目には、地域防犯への貢献を認められて小平警察署から感謝状もいただきました。

また、私たちの活動のもう一つの柱が、玉川上水沿いの新堀用水の清掃です。当初から毎月1回のペースで水路に入り、ポイ捨てゴミや落ち葉などを掃除します。おかげで以前のドブ臭さは解消。自然の「せせらぎの音」も出そうと、多摩川から石を運んで工夫もしました。こちらも住民や通学生、ウォーキング愛好家の皆さんから

ことも。しかし、ユニフォームを揃え、拍子木を鳴らし感謝のお声をいただいています。

ここ数年は、市の担当者を講師に救急救命セミナーを開いたり、今年3月には、岩手大学・地域防災研究センターの松岡勝実教授を招いての防災セミナーも好評でした。

10年目を迎えて実感するのは、地域のつながりの大切さです。「いざというときに助け合い、支え合える地域に！」——。その思いを込め、これからも「戸締り用心、火の用心！」の声を地域に響かせていきたいと思います。

「地域センターであそぼ」に参加して

野村 知広（白梅学園大学発達臨床学科2年）

3月9日（土）開催された「地域センターであそぼ」に参加していろいろなことを学ぶことができました。例えば子どもの対応についてです。何回か来ている子どもの名前は絶対に覚えていて必ず名前を呼んであげていました。名前を呼ばれた子どもはとても嬉しそうでした。

初めて来た子どもに対しては最初必ず名前を聞いていました。そうすることで子どもとすぐに打ち解けあうことができおり、一緒に遊ぶことを容易にやっておりました。私は、初めての子どもには少しずつ遊びで仲良くなっていくのですが、仲良くなったころにはもう時間でお別れしないといけないといったことがよくあります。これから広場に参加していく上で私も試してみたいと思いました。

手作りおもちゃの完成度に私はとても驚きました。食べ物のおもちゃなど手作りでここまで作れるのか、完成度の高いおもちゃが全部手作りということが信じられませんでした。これらは「ごっこ遊び」などするときにより本格的な遊びが出来るのではと思います。ただ完成度ゆえに遊べる子どもの年齢が限られてしまうのかなとも思いました。

手作りのもので一番印象に残ったのは、「やぎさんゆうびん」のやぎ。終わった後実際に作り方を教わりに行きました。長い靴下をベースに作られていて発泡スチロールなどを使いとても上手に作られており、このような人形は子どもの視線を集めるのにとっても有効なものだと



思いました。絵本や紙芝居を読むときに、その物語に主となるものを作って一緒に読むだけで絵本や紙芝居がより楽しいものとなると思います。広場で活動するときに参考になる工夫が多くされていたので実際に取り入れてみたいなと思いました。

この地域センターは、小さい子どもだけでなく小学生や保護者なども来ていたので、白梅子育て広場でいう「あそぼうかい」のような感覚でした。さまざまな年代が同じ場所でいろんなことをして遊ぶということはとても難しいことだと思います。それでも今回の地域センターではどの子どもも退屈せずに遊べていたのでよかったと思います。なにより今回この活動で私が一番楽しめました。また機会があったら参加してみたいです。

“アイデアだけは満載です”

白梅学園大学 関谷 栄子

第二地区の世話人さんは比較的広い地域で独自の活躍をされている方が多いです。従って世話人になって頂く方が自然に集まるような気の長い活動を焦らずに進めることを了解事項としてきました。

芳井世話人さんが自治会に働きかけて下さり自治会との接点を模索しています。また小平 12 小の青少対祭りに参加したりと徐々に地域との拠点を見つけていく努力を行っています。足立世話人さんは「こだいら自由遊びの会」で広い地域で活動しておられます。また、「小平都市道路 3.2.8 号線の建設に対する住民投票を求める署名活動」にも協力する方がたもおられます。

玉川上水を守るために多くの方による、様々な取り組みがあることも知ることができました。その中で「東小川橋防災連合会」で実践しておられる早田満さんとの出会いがありました。防災倉庫や防災ポンプの管理を実際にしておられ、実際にポンプを動かす訓練もされて地域の防災指導に尽力しておられます。施設や高校の防災訓練の際にも専門家の立場で指導協力されています。ポンプの動かし方などもぜひ教えてあげたいと意気込みを話されました。

防災問題は大地震がいつ起こるかもしれない折、白梅



学園が地域協力できる重要な課題であり、今年度の計画には何らかの取り組みを実現させたいと考えています。さらなる、つながりを模索していたところ、防災時に威力を発揮する「コミュニティFM局」の開設について考えてみないかとの提案が持ち上がりました。

白梅がFM局を開設できるのか？考えてもいけませんでしたが、実現までには多くの課題があります。ともかくどのようなことなのか専門家に話を聴いて学習をしてみようとの空気が起こっています。夢のような話ですが、関心を持たれる方がありましたら、ご一緒に研究しませんか。新学期を迎え新しい学生たちが参加してくれることを大いに期待しております。

笑顔もらったコミカフェ(4/19)

家族・地域支援学科 2年 板井 雅俊

4月19日(金)に学内でコミュニティ・カフェを開きました。私はまず素敵な会だなと感じました。世代間交流というお年寄りの方から子どもまで幅広い世代の人々が集まり交流するという機会を設けることでお年寄りの方は若い世代の人々からエネルギーをもらえます。

若い世代の人々はお年寄りの方々からの伝統を受け継ぎ後世に伝えるための数多くの話を聞くことができます。私自身今回実行委員長という大役をやらせていただくことになり参加した地域の方や先生方からとても多くの話を聞くことができ良かったと思っています。そして私達学生が企画したレクリエーションを通し交流を深めることもできました。



風船バレーや童謡を歌いみなさんの笑顔を見ることが出来て私自身も元気をたくさんもらえました。大学院の

方にも協力していただき世代間交流だからこそ出来ることだなと思いました。

他にも地域から来た方にピアノを弾いていただいたり



先生にハーモニカを吹いていただき雰囲気も非常に良く、参加していただいたみなさんにも助けられ無事成功で終えることができました。

私はこのコミュニティ・カフェを通し人を集めることの大変さ、参加したみなさんに笑顔でいていただくことの大変さを学びました。けれども世代間交流だからこそ多くの人が体験してきたことを生かし披露していただくことで雰囲気も良くなり多くの人に協力をいただくことで成功することなのだなと思いました。

このコミュニティ・カフェで実行委員長をやることできて本当に良かったです。

来月以降3回あるコミュニティ・カフェでも多くの人に笑顔でいていただけるような会になるようこれからも学んでいきたいと思います。

5月26日(日)はこぞって住民投票へ

——3・2・8号線の計画の見直しの必要性問う住民投票——

投票率50%を超えましょう

小平都市計画道路に住民の意思を反映させる会：水口 和恵

皆さん、5月26日に住民投票が行われます。住民投票では、

- ・住民参加で計画を見直す
- ・見直しは必要ない

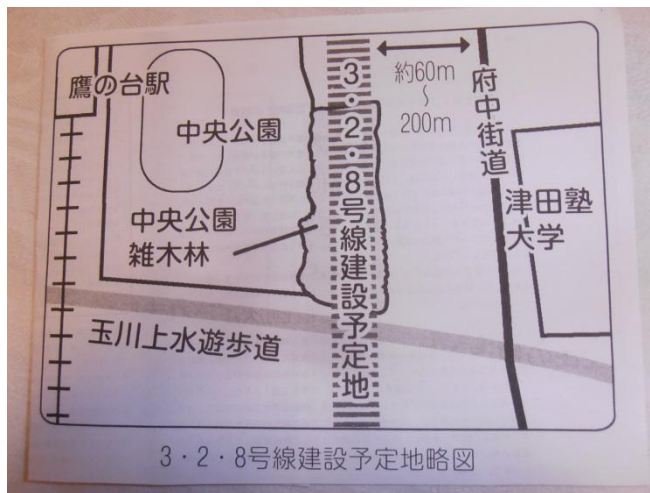
のどちらかを

選択します。

住民参加で計画を見直すとは？

住民投票で、道路計画は「住民参加で見直す」と言う声が多数を占めた場合、小平市は、東京都に対して、現段階での事業認可を見合わせるよう、要請して欲しいと思います。

「見直し」とは何でしょうか？ 「新しい道路は不要」「府中街道を改良すれば十分」「計画ルートを地下化して、緑を残す」「ルートを変更する」など、たくさんの意見があります。広く市民の意見を集め、有識者のアドバイスを得ながら、より良い計画のために、市と市民で話し合いを重ねたいと思います。そして、



住民の意思を反映した小平市の見直し案を作成し、東京都とも調整しながら結論を出すことにします。

でも、投票率が50%を超えないと開票されません！ 皆さん、ぜひ26日は投票所へ！（17日～25日まで期日前投票もできますよ！）

イベントのお知らせ①

5月26日(日) 10時～15時

「ホットスペースさつき・ミニバザー」

掘り出し物がたくさんあります!

ぜひ皆さん、いらっしやい!

(また、不用品をぜひカンパしてください)

ネットワーク担当者一覧

(各地区のイベント、相談事は世話人にご連絡ください)

ブ ロ ック	世話人	教職員
1	西 克彦・布 昭子	山路・瀧口(優)・井上
2	芳井正彦・足立隆子	関谷・土川
3	石川貞子・久保田進 穂積健児・大内智恵子	草野・西方・牧野・瀧口(眞)
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田 誠 細江卓朗	森山・杉本
全 体 的		奈良・長谷川・成田・吉村

(今後の日程)

5月28日(火) 懇談会

7月9日(火) 世話人会

9月21日(土) 懇談会

お願い: このニュース『小平西のきずな』の編集方針は「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加者の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。

ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出ください。

投稿募集: このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動やイベントの企画などについての

イベントのお知らせ②

6月27日(木) 午後2時～3時45分

小川西町地域センター2階にて
コミュニティ講座

「梅雨と夏を乗り切るための健康管理」

講師: 辻 千秋(つじ・ちあき)先生

(ちあきこどもクリニック院長)

参加費: 無料(申込不要・先着順)、定員: 30名

問合わせ: 白梅学園大学・瀧口(たきぐち)

TEL: 042-346-5639

皆さん、ぜひお越しください!

富寿美会お花見会報告

会長・渡辺 穂積

四月九日(火) 十時～十三時まで中央公園で恒例のお花見会を開きました。約七十人が参加。デイ・サービス「オリーブ」からも加世田理事長を含め数人が加わって会を盛り上げました。
桜はすでに散っていましたが、持ち寄りの料理や甘酒に舌鼓を打ちながら歓談。その後、レクダンス: 「小平音頭」、「真つ赤な太陽」、「青い山脈」などの曲に合わせてダンスを楽しみました。曇り空のうすら寒い天候でしたが、青春時代に戻った気分になったところで散会。

原稿をお寄せください。

Email: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp 奈良

(注: メールアドレスを最近変更しました)

編集後記: 春らんまんの時節ですが今年はどうも異常気象で暑かったり寒かったりの日々が続いています。北海道では季節外れの雪の便りも。どうぞご自愛ください。『小平西のきずな』も皆様の協力を得てさらに充実させていきたいと考えます。よろしく。

(N)